

平成24年 新たに発生が確認された病害虫(\*)、今後の発生に注意を要する病害虫等

農作物名	病害虫名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
ニラ	白色疫病*	西北地域	平成24年5月	露地栽培ニラ（品種：パワフルグリーンベルト）の5%程度で、葉の病斑部が灰色～灰暗緑色となって枯死する症状が発生。 <i>Phytophthora</i> 菌遊走子のうの形成を確認し、既報の病原菌形態と一致したことから、白色疫病と診断した。 (農林総合研究所)
アルストロメリア	根茎腐敗病*	中南地域	平成24年5月	品種によって発生割合に違いがあり、多い品種では50%程度の株に発生していた。病斑部からは多数の <i>Pythium</i> 属菌が分離され、根茎腐敗病と診断した。 (農林総合研究所)
ヒマワリ	べと病（特異発生）	中南地域	平成24年6月	ヒマワリ幼苗に全身発病症状のべと病が発生。病斑部には <i>Plasmopara</i> 菌を大量形成し、既報の病原菌形態と特徴が一致した。症状がダイズべと病の全身発病株と類似することから、種子伝染の可能性が考えられる。 (農林総合研究所)
デルフィニウム	新病害* <i>Cylindrocladium</i> 属	農林総研 (所内ほ場)	平成22年～、 平成24年6月 (分離同定中)	平成22年からデルフィニウムに立枯症状が発生し、根が黒変腐敗していた。分離菌は、土壌接種で病徴が再現され、病原性が確認された。ITS領域で <i>Cylindrocladium</i> 属と高い相同性があったことから、これまで未報告の病害と考えられる。 (農林総合研究所)
デルフィニウム	疫病*	西北地域	平成22年7月、 平成23年6月	デルフィニウムに生育不良が発生し、品種によっては35.7%の欠株がみられた。持ち込み株からは、 <i>Phytophthora</i> 属菌が分離され、遊走子の浸根接種により病徴が再現された。我が国のデルフィニウムでは未報告である疫病の可能性が高い。 (農林総合研究所)
すいか	紫紋羽病 (特異発生)	鱒ヶ沢町 北浮田	平成24年 7月中旬	7月に入って急性的に萎ちょうし始め、収穫前には、ほ場全面枯死。根の表面は灰紫色を呈し、さや状にはがれること、紫褐色の菌糸膜が検鏡できることから、「紫紋羽病」と判断した。 (防除所・地域農業普及振興室)
キク	アシグロハモグリバエ（発生拡大）	東青管内	平成24年 7月～9月	管内キク栽培農家6戸で本種の発生被害を確認した。 (地域農業普及振興室)
さやいんげん	カメムシ吸汁害 (多発害虫)	西北管内	平成24年8月	岩木山麓（長平）にて大型カメムシ類による吸汁被害を確認した。加害種はクサギカメムシ、ブチヒゲカメムシである。 (地域農業普及振興室)
メロン かぼちゃ	カメムシ吸汁害 (多発害虫)	西北管内	平成24年8月	ネットメロンの割れ目にカスミカメ類が寄生し、生産者の談話からネット形成に影響があるとのこと。寄生種はマキバカスミカメであった。また、同時期にかぼちゃ果実の表面がこぶ症状を呈する本種による被害果が確認されている。 (地域農業普及振興室)
ピーマン	カメムシ吸汁害 (多発害虫)	三八管内	平成24年 8月～9月	大型カメムシ類による果実吸汁被害を確認した。三八管内での発生面積率7割と広範囲に及んでいる。加害種はクサギカメムシ、チャバナアオカメムシである。 (地域地域普及振興室)

農作物名	病害虫名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
加工用ブドウ	ブドウサビダニ* リンゴハダニ*	むつ市川内	平成24年 8月下旬	フシダニ類とハダニ類の2種の寄生を確認。フシダニ類はブドウサビダニ（長野県虫害担当の方に教授を受け同定）、ハダニ類はリンゴハダニ（茨城大、後藤教授同定）であった。地域普及振興室でコロマイトを特別散布し、発生が抑制されることを確認した。 (防除所・地域農業普及振興室)
醸造用ブドウ	つる割細菌病* (分離同定中)	むつ市川内	平成24年 8月下旬	つる割細菌病に類似した被害葉を見つけ、果樹研に診断依頼を行った。PCRにて陽性判定であったが、病原細菌を分離できなかったため、次年度に再調査することとする。 (防除所・地域農業普及振興室)
アルストロメリア	疫病* 根茎腐敗病*	中南地域	平成24年9月	ハウス内2品種のうち1品種のみに株の腐敗が発生した。地下部の病斑からは、 <i>Phytophthora</i> 属菌と <i>Pythium</i> 属菌が分離され、疫病および根茎腐敗病と診断した。 (農林総合研究所)
トマト	すすかび病*	西北地域	平成24年9月	施設トマト（品種：桃太郎ギフト）の30～40%程度で、葉かび病様の病斑が発生。病斑部に <i>Pseudocercospora</i> 菌分生子の形成を確認し、既報の病原菌形態と一致したことから、すすかび病と診断。 (農林総合研究所)
水稻	赤かび病 (多発病害)	田子町 山口嘉沢	平成24年 9月下旬	被害籾の鉤合部に赤紅色の孢子塊が確認された。被害穂を採取し、防除所にて <i>Fusarium graminearum</i> 種複合体と同定。なお、全農検査においてDONは不検出。発生主な原因は、降雨による刈り遅れ、および発生水田では斑点米粒が多く、赤かび病籾はその斑点部に二次感染したフザリウム菌によると考えられる。 (防除所・地域農業普及振興室)
秋だいこん (9月上旬収穫)	キスジノミハムシ (多発害虫)	東北町 三沢市	平成24年10月	前年に引き続き、7月中旬播種-9月上旬収穫の作型でキスジノミハムシの成虫による茎葉食害や根部の幼虫食害が多発した。高温により世代間隔が短くなるため、夏作では茎葉繁茂期～肥大期の追加防除が必須であり、本種成虫の消長に対応した防除の指導徹底が必要である。なお、8月上旬播種～9月下旬収穫での被害はほとんど見られていない。 (防除所・地域農業普及振興室)